



令和 2 年度

大妻中野高等学校 卒業証書授与式

校長式辞・旅立ちの言葉・来賓メッセージ

卒業証書授与式

日時 令和 3 年 3 月 15 日（月）午前 10 時~11 時

場所 大妻中野中学校・高等学校 メイン・アリーナ

校長式辞

やわらかな早春の日差しを浴びて明日への希望が膨らむ今日の佳き日に、ここに、大妻中野 高等学校 卒業証書授与式を挙げて下さることを、深く感謝するとともに、本日に至るまで、卒業生に対してご支援をいただいた多くの方々に、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました、215 名の卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。そして、保護者の皆様、心からお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。保護者の皆様には、このような社会状況をともに乗り越え、卒業を迎えられたお嬢様の姿に感慨も一入のことと思います。本校の教育活動に寄せられました、これまでの皆様の深いご理解とご支援に対しまして、改めて厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、皆さんは、校訓「恥を知れ」と建学の精神「学芸を修めて人類のために」のもとで、授業や学校行事、課外活動、そして部活動や委員会活動など、積極的に取り組んできました。この 6 年間、様々な取り組みを通じて、友人とともに、膨大な体験の日々を積み重ねて成長してきました。特に、ここ数年は、これまでになかった本校の新しい取り組みにも率先して挑んでくれたこと、日本だけでなく、世界にも目を向ける上級生としての姿を後輩に示してくれたことを感謝しています。高等学校最終学年であり、特に、受験学年でもある今年度は、コロナ禍の一年となって、大きな制約を受け、大変なご苦労をされてきたかと思いますが、皆さんはいつも前向きに思考を続け、工夫をしながら努力を重ねてきました。

私たち教職員一同、そして在校生一同は、逆境を乗り越え、成長し続ける、そんな皆さんの姿、そして未来に向かおうとしている本日の姿を、頼もしく、そして、誇りに思っています。同時に、本日の皆さんの成長し続ける姿を目の当たりにしたとき、当然ながら、生まれてから、ずっと愛情深く支えて下さり、ともに歩んでこられたご家族の存在があってこそのもので、改めて感じ入っております。

さて、いま、日本や世界は、人類が初めて遭遇する新型ウィルスに翻弄されていますが、ひと昔前とは異なり、より発展した科学的技術、医療的技術に基づいた対応策の取れる世界になっているということは事実です。発生場所や症状などの情報をオンラインで収集、共有し、原因となるウィルスを早期に特定することで、3密回避、マスク、換気、消毒などの感染防止対策を全国一斉に打ち出すことができ、同時に様々な国がワクチンを製造していく、そして、リモートで授業や仕事を継続し、オンラインでコミュニケーションをとったり買い物をしたり、これまでの技術の蓄積や、科学や医療の発展に

よって、ひと昔前なら、もっと多方面にわたったであろう被害をできる限り押さえ込むことができているという点で大きな進歩があります。

多くの方々が被害に遭われたこと、非常に残念なことではありますが、人類はやがて今回も、そしてこれからも、いくつもの難題を乗り越えながら、新しい社会を創っていくと考えています。

皆さんが学んできた、校訓「恥を知れ」と建学の精神「学芸を修めて人類のために」は、時代を超え、地域を超えた大切な生き方の理念です。それは、「自分らしさを大切にするとともに、相手らしさ、つまり、相手の個性や文化を尊重し、その違いを、多様であることを、受け入れるだけでなく、互いに活力とすることができる、そんな社会を創る一員となる」ということを目指すものです。

春は確実にそばに来ていることを感じています。人類の英知を信じて、一人ひとりが前向きに行動しましょう。世界は、まだまだ皆さんの知らないことに満ちあふれています。自分の目で、自分の足で、自分の頭でそれらのあり方をとらえ、身近な課題から地球規模の課題にまで思いを馳せ、『人の幸福と物事のあり方』について、自分から進んで深く考え、行動できる社会人になってほしいと願っています。たゆまず「思考」を続けることこそ、人類の発展に、皆さんの幸せに、大きく寄与することと思います。

最後に、この歴史的な大きな節目に卒業される皆さん。皆さんは、日本や世界が大きく動き続けていることを実感しながら、いよいよ新たなステージに向かいます。卒業生の皆さん一人一人が、これからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。

令和3年3月15日
大妻中野高等学校長 野崎裕二

- 旅立ちの言葉 - Commencement Remarks

日差しが日々柔らかくなり、春の到来を感じる季節となりました。コロナウイルスの勢いが未だ終息せず、さまざまなイベントの中止が余儀なくされている中、本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい式を催していただき、ありがとうございます。校長先生を始め、諸先生方、そして家族にこうして卒業の日を祝福していただけることに心から感謝しています。

三年前の春、私達はすでに多くの思い出あふれる大妻中野高校に、高校生としての期待と不安を胸に、入学しました。この三年間を振り返ると沢山の思い出が蘇ります。

高校一年生になり、制服が変わるとともに、大妻中野に通う生徒としての自覚がより深まりました。クラス替えでそれまでのクラスとクラスが混ざり合い、友達との別れがある一方で、中学時代には、言葉を交わしたことがなかった他クラスの生徒との刺激的な出会いがありました。久しぶりの友達作りに、不安で胸が一杯になり、時に涙した日々も今となっては良い思い出です。

二年生では、歴史研究旅行で奈良、京都を訪れました。東京とは全く違う街の雰囲気や景色で、中でも伏見稲荷神社の、どこまでも果てしなく続く赤い鳥居のたたずまいが、今でも強く印象に残っています。集合時間に間に合うよう、気を配りながらお土産を探して嵐山を走り回ったり、疲れて途中で足湯に入り一休みをしたりなど、大妻中野での最後の宿泊行事ということもあり、旅行中は一貫して楽しかったのを覚えています。自主研修中心の旅行ということで、事前学習や準備で自由行動のバスの時間を調べたり、行程表を一から作ったりすることはとても大変で、時に億劫にも感じましたが、自分たちで行きたいところを探し、すべては自己責任のもとで知らない場所を探索したことで、より充実した時間となりました。

また、体育祭も私にとっては思い出のある行事です。私たちの学年では、残念ながら一昨年が最後の体育祭になってしまいましたが、クラス対抗戦や学年ダンスなどを通してクラスの絆がぐっと深まる体育祭は、クラス替えで知り合ったクラスメイトと仲良くなれる、一大イベントでした。体育祭の幹部として、その運営側に一度携わったことで、楽しみの裏には必ず見えない努力があることを学ぶことも出来ました。

三年生になり、何気ない学校生活が本当にかげがえのない時間となりました。コロナウイルスの拡大で緊急事態宣言が発令され、一学期の前半、学校への登校はできず、授業はオンラインになるなど、前例のない一年となりました。やっとのことで、一学期の後半からは学校に登校できるようになりましたが、今度は楽しみにしていたテーブルマナーや卒業を祝う会が中止となり、とても悔しい気持ち、そして受験はどうなるのかという不安で勉強に集中できない時期もありました。そのような時にもともに悩み、悲しみ、喜び、そして支え合った友達の存在にどれ程助けられたかわかりません。そう思えるような仲間と出会い、貴重な高校生活を送ることが出来て、今は本当に幸せです。

今日の日まで、このような私たちをいつも見守ってくださった先生方、心から感謝申し上げます。先生方が学校外でも **manaba** などを通して常に情報を発信し、決して一人ではないと思える環境を作ってくくださったおかげで、私たちは異例の事態の中でも安心して勉強に取り組むことができました。まだまだ一人前とはいえませんが、私たちがここまで成長できたのも先生方のご指導、そして優しさのおかげです。ほんの小さな一言でも元気が出たり、勇気づけられたりすることが今までに多くありました。

今日まで私たちを導いてくださった全ての方々に卒業生を代表して感謝申し上げます。いつも校舎を綺麗に保ってくくださった用務員の方々、毎日、朝早くから私たちの登下校を見守ってくくださった警備員の方々、ともに同じ時間を過ごした友人たち、未熟だった私たちを諦めずにここまで育ててくださった先生方、そして何より私たちのことを一番心配し、陰ながらずっと支え続けてくれた家族には、言い尽くせないほどの感謝を感じています。本当にありがとうございました。

私がニュージーランドに留学していた時に、お世話になったホストマザーが教えてくれた言葉があります。

Life is not measured by the number of breaths we take, but by the moments that take our breath away.

ただ毎日を生きるのではなく、どんなに小さなことでも挑戦し、自分を高め、人生を豊かなものにしようと思わせてくれる言葉で、辛い時ややる気が出ない時に思い出し、大切にしている言葉です。

これから私たちはそれぞれの道に進み、答えのない問題に多くぶつかることがあると思います。しかし、答えの出ない問題だからこそ、得られるものも多くあり、一つ一つ苦しみながらも向き合っていくことで、より成長できるのだと信じています。十八歳の今感じている希望や夢を忘れず、大妻中野で過ごした日々を糧に前に進んでいきたいと思えます。

Always aim for the best, and never let yourself down.

今までとは違った卒業式になりましたが、皆様のご健勝と、母校の更なる発展を祈念し、旅立ちの言葉とさせていただきます。

令和 3 年 3 月 15 日
大妻中野高等学校 令和 2 年度 卒業生代表
K.K.



卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本年の卒業式は、コロナ・ウィルスの影響がまだまだ続く中で、例年とは異なる形で行われることとなりましたが、皆さんが元気で、この意義深い日を迎えることをお慶び申し上げます。

皆さんは、これからそれぞれの道を歩むこととなります。大妻中野で学んだことを基礎に、大いに自分の世界を拓けてください。皆さんの活躍を心から祈念し、応援したいと思います。

最後に、かつて私の語学の恩師が私に送ってくれた言葉を皆さんに送り、お祝いの言葉としたいと思います。

Open your horizons!

2021 年 3 月 15 日
外務省元国際情報統括官・元駐シンガポール大使
竹内春久



ご卒業おめでとうございます。皆さんは大妻中野で6年間、様々なものを身につけました。大妻中野で学び、手に入れた中で最も大切なものは、将来必要となる知識を得るための力です。生きていく上で必要な知識には終わりがありません。

卒業生の皆さんの、今日の素晴らしい笑顔が20年後、30年後もそのままであること、それこそが大妻中野での学びが成功であったという証になります。地球上の全ての人間に平等に与えられているのは1日24時間という時間です。この24時間をどう過ごすかが、今後の皆さんを決定づけます。

卒業生の皆さんの益々のご発展をお祈りいたします。

2021年3月15日

大妻女子大学教授・早稲田大学講師・言語学博士
服部孝彦



Dear 2021 Otsuma Nakano graduates,

At the University of Saint Joseph, we remember fondly the visit to our campus of some Otsuma Nakano students from this graduating class. They were bright, friendly, and curious and served as excellent ambassadors for your school. I trust that all of you are as well-prepared for the future and that you will welcome it with the same open minds and hearts that we saw when your classmates visited us. We would welcome any of you to our campus when you are in the U.S.

Congratulations and best wishes for great success from your friends at the University of Saint Joseph.

President Rhona Free,
University of Saint Joseph, CT, the United State of America,



Kia ora Otsuma Nakano Graduate students,

I am really proud to hear of all of your achievements since you have left New Zealand. It warms my heart to hear of you chasing your dreams and now you are off to University. I keep the memories of our times in New Zealand close to my heart forever. I will never forget you. I would love to welcome you back to New Zealand some day. All the best for your University life. Keep chasing your dreams and send me a message from time to time. I would love!

From Teffrey Suzuki,
New Zealand,